

# ななかまど

令和4年8月1日(月)  
第49号  
一般社団法人  
猿 払  
ななかまどの会  
会 報

# ついに第7波到来

## コロナ変異株BA.5の威力

さらに感染力の強いBA.2.75株も登場。今後の日常生活をどう過ごしたら……

七月の三連休までは宗谷管内でも罹患者0の日がありました。その後10人を超したあたりから一気に30人台へ増えました。全国は三日以上連続して十五万人以上と過去最高を記録しています。

第七波の到来です。これまでのコロナと違うところは感染力が強いということと、比較的軽いうこと、若年層にも広がって

行政もこれまでと違って「宣言」を出さず、行動規制も提示しません。それどころか「熱中症対策」のため人混み以外ではマスクを外してもいいとさえ言っています。これはこれまでの経験からうつり方が特定されてきたからで

しょう。これまでとも言われてきたように「飛沫を吸い込まない」ことが感染対策上一番重要なことのように思っています。ウイルスが付着したものに触るという事はあまりないこと。ではいったいどこで飛沫を吸い込むか、ということや、つばり飲食中だと言います。飲食するときはどうしてもマスクを外します。食べながらおしゃべりをすると必然的に飛沫が広がります。お酒が入るとどうしても声

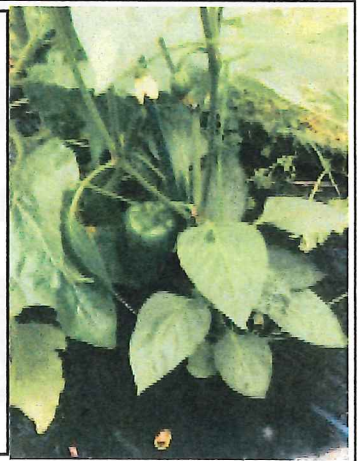
が大きくなります。ましてや年齢が高くなるほど耳の聞こえが悪くなるほど耳の聞こえが悪くなります。感染環境マックスです。参加者が全員陰性であればリスクも少ないのでしようが、中に無症状の保菌者がいたらもう感染は避けられません。

家庭ではマスク着用義務のない子ども達が外でかかって家庭内に持ち込むという事もわかってきました。賛否分かれますが子ども達をコロナから守るためには

ワクチンしか今のところないようです。人同士対面するシーンではマスクの着用、限られた空間での換気、手指消毒、食事中はしゃべらない等の基本的な対策を徹底しコロナを乗り越えましょう。それにしても、いくら経済と両立させるといってもこの夏の人流はいつぱんに増えすぎですね。

新たなウイルス出現  
「サル痘」国内で初確認されました。

サル痘は天然痘ウイルスに似た「サル痘ウイルス」に感染することで起きる病気です。七日から二週間の潜伏期間があり発熱、頭痛、リンパ節の腫れ、筋肉痛が五日間くらい続きその後発疹が出るそうです。ただ、1976年最後の天然痘のワクチンを受けている40代後半以上世代はサル痘に対する免疫があるようです。感染力はころなより低いそうです。



ビニールハウスの威力は凄いで！

放課後塾「ななかまど」では、毎年栽培活動も行っています。六月の植え付け時の低温と雑草でなかなか作物が育ちませんでした。そこで今年は念願のビニールハウスを導入しました。防草シートで雑草対策もしました。

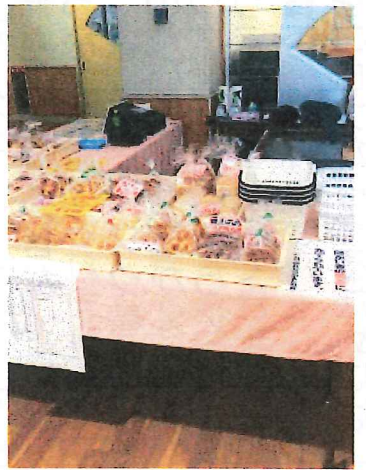
子ども達に育てたい野菜の希望をとったところ、真っ先にピーマン、パプリカ、次にミニトマト、なすび、人参と次々出てきました。早速苗を買いにお店に出

向くとシーズンを過ぎたためか種類も少なくなっています。ピーマン、なすび、ト



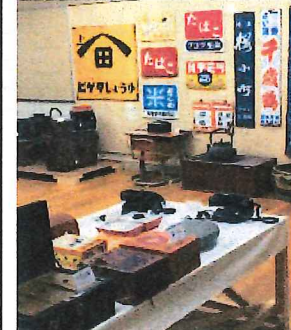
マト程度しか手に入りませんでした。その他は頂いた苗と種を植えて、現在16、7種類の作物を育てています。生育状況も素晴らしくピーマンやなすびはもう少しで収穫できそうです。またミニトマトもたくさんの実を付け始めています。それにしてもビニールハウスの威力は最高です。村民農園で作物を育てている方から六月上旬の低温で植えたばかりの苗を全部だめにしたという話を聞きました。村民が利用できる大型のビニールハウスがあってもいいですね。いちごの実証実験の後継続する予定がなければ広さは限られますが村民に開放するというアイデアはいいでしょう。

## 7月は2度のイベントに出店しました



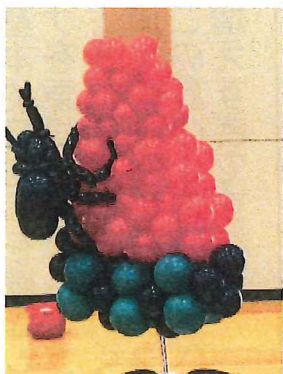
七月は「郷土資料館の公開展」と「さるふつマーケット」の二イベントでパンの販売を行いました。皆さんのご協力ではほぼ完売することができました。ありがとうございます。

特に「さるふつマーケット」は、初めての取り組みだったにもかかわらず



超える来客者あり、企画した

実行委員会の方母さん達には感謝しありがとうございます。二ヶ月以上も前から出展者の掘り起しや行政への協力依頼など、「村の公園整備のために募金したい」という強い熱意を感じました。当日は約40の団体や個人が店を出し、久しぶりの大きいイベントとなりました。また今度機会がありましたら参加させて頂こうと考えています。



## 戦争反対

障がい者を増やす

ななかまどの会は障がい者の社会参加を応援している公益法人です